

会 議 録

会議の名称	令和2年度飯塚市地域福祉推進協議会
開催日時	令和3年2月15日（月） 14:00～15:30
開催場所	飯塚市役所 5階 研修室
出席委員	15名（小賀委員、寺尾委員、松原委員、高石委員、友松委員、伊佐委員、重岡委員、浅田委員、大塚委員、山田委員、渡邊委員、安永委員、長谷部委員、佐野委員、圓入委員）
欠席委員	2名（高岡委員、岡本委員）
市職員	福祉部長（實藤）、福祉部次長（渡部）、社会・障がい者福祉課長（古野）、同課長補佐（松本）、同社会福祉係長（平田）、同係員（永富）、防災安全課長（白石）、人権・同和政策課長（山田）、まちづくり推進課課長補佐（高橋）、地域公共交通対策課長（松村）、子育て支援課こども家庭係員（梅本）、高齢介護課課長補佐（寺敷）、生活支援課長（内田）
会議内容	<p>1 開会 ○事務局挨拶</p> <p>2 議事 議題1：第2期飯塚市地域福祉計画の令和元年度推進状況について （1）行政（公助）の取り組み状況調査結果 （2）共助の取り組み状況調査結果 （3）公助、共助の取り組みにおける課題 （4）事前質問に対する回答【資料4】について ○事務局より、資料1・2・3・4]を用いて説明</p> <p>【委員からの意見、質疑応答】 [委員] フレイル予防の担当課が、健幸・スポーツ課に変わっていますが、その理由はなぜか。フレイル運動と、日常生活を援助するためのスポーツは、少し観点が違うのではないか。また、フレイル予防のサポーターは、どの</p>

くらい的人数がいるのか。今、サポーター自身が高齢で、活動をやめてしまい人材不足になっている。サポーター自身も、もっと学んだことを自分の地区で何かの活動に生かす、というやり方をもう少し考えてほしい。サポーターの中でも、学んだことをどのように自分の地区にフィードバックしていくかということを実際に考えているところもあると思う。

[高齢介護課]

今まで高齢介護課が「介護予防」の中で、対象者を65歳以上として「フレイル予防」をやっていたが、その年齢以前から実施した方がよいということで、健幸・スポーツ課へ移管したもの。

また、サポーターによる地区へのフィードバックに関するご意見については、健幸・スポーツ課と情報共有し、検討していきたい。

[会長]

委員のご意見にあったように、よい取り組みであるのだから、学んだことを活動に生かし、それを広げていくことについて所管課へ伝えていただきたい。

[会長]

私は、災害時の避難所での過ごし方なども大変気になる。

被災した際に、避難所に駆け込んで、今のような新型肺炎の状況下で、3密対策がなかなかとれないなどの様々な不安に対し、解決していかなければならない具体的な対策や課題が沢山あり、行政だけではなく、行政と市民が一体となって、それぞれの命を守りあうような取り組みが、どのくらい進んでおり、課題として何が残っているのか、そのようなことについて委員の皆様よりご意見をいただきたい。

[委員]

まちづくりの基本にあるのは、やはり自治会ではないか。その自治会の新規の加入率が低い、さらに脱退が多いということ、お互いを助け合うという意識が希薄になっていることが問題だと思う。

高齢者や共働きで子育てをしている若い世帯には、自治会から脱退をしたいという理由として「役員をしたくない」「周りの世話をしたくない」「自分一人で生きていられるから別に人から助けてもらわなくてもよい」「自治会費を払わなくてはいけない」という内容が多いことから、自治会の役職を外す、また、高齢者世帯の自治会費を下げるなどという方法もあると思う。

[会長]

自治会に加入していることのメリットが感じられないということ。すで

に検討されているような、より良い加入の仕方などと併せて、具体的にメリットを感じてもらわないと、自治会に入ること、あるいは、入り続けるということが、難しいと考えている人が多い状況である。これについては、この会議で我々が、こうするべきじゃないかという意見を作っていかなければいけない。そして、行政に対しては、その時こういう支援をしてほしいと、我々から提案していくというように、整理して考えていくべきである。

[委員]

資料4に『住民相互の生活支援、また災害時における助け合いといった、これからの時代に必要な「共助」について理解してもらうことが、自治会加入を促進するうえで大事な視点だと考えております。』とあるが、本当に一番大事な事だと思う。災害時のお互いの支援が、特に喫緊の課題ではないだろうか。

[会長]

自治会の活動というものが、その地域の暮らしに役立っており、皆が利益を受けていることなど、自治会の果たしている役割を明らかにして、知らせていく必要がある。例えば、転入手続きの際に、自治会活動をお知らせする文書を配布するなど、具体的に我々から提案していかないといけない。

また、災害時には、高齢者、ひとり親世帯、障害のいる方の家庭など、すべてに飯塚市職員が駆けつけることはできないため、実際に住民で助け合わないと、どうにもならないという問題がある。そのとき、大きな力を発揮できるのは、自治会であるということを確認し合う取り組みが必要ではないか。まずは、逃げるのが難しいというような状況を抱えているような方などを中心に、その助け合いの輪を具体化をしていく。その際に、住民間の助け合いだけでは、うまくいかない事柄について、例えば、施設や設備が必要だとか、公的に支援が必要な場合は行政に提案する、そのような役割分担をしながら考えていくべきだと思う。

この自治会加入率が低いという問題は、地域福祉計画の主要な課題として、次年度以降もきちんと整理できるように議論を重ねていきたい。

[委員]

各自治会の拠点ボックスがいつ開いているのか、その管理はどこがされているのか。

[まちづくり推進課]

拠点ボックスは、各自治会で管理をし、それぞれの自治会において開ける時間などを決められている。

[委員]

拠点ボックスは、自治会長が管理をしている。自治会が管理しているため、自治会以外の方は入れられない。

[会長]

ちょっとしたことだけれども、自治会に入っていることで、少しでもメリットがあるという事を市民に知らせていくことが必要と考える。

[委員]

福祉避難所において、避難所運営訓練の実施や施設との調整は具体的にどこまで進行しているのか。災害はいつ起こるか分からない状況であり、大事なことではないか。

[防災安全課]

現在、訓練・検証のため、浸水地域や土砂災害地域に入っている避難所に、個別避難計画を作成していただいております。現在、半数程度の施設が計画を作成している状況である。

[副会長]

資料について自助に関するものがないが、どうしてなのか。高齢者で考える自助ということでは、自分で身を守るというよりも、助けてほしいと言えること。その自助をしっかり支えてくれるのが公助ではないか。そういうことも含め資料の中で自助という項目を整理していくことも必要ではないか。

また、自治会加入率の減少について、「人権啓発」というような視点で、自治会加入率の減少を考えなければいけないのではないかと。なぜ自治会に参加をしないのか、入らなくてもそれで済むんだ、というようなことになっている。この頃の災害でも、思いがけない緊急事態が日常的に全地域的に起きている、その事をもっと真剣に自分のこととして考えていかなければ、なかなか根本的な解決は図れないと思う。

[社会・障がい者福祉課]

この計画を立てる際には、市民アンケートを行っており、その結果等をふまえ、第4章の中で自助として市民の方に取り組んでいただきたいことを記載していることから、会議では、行政が行っている取り組み実績と課題、福祉活動の拠点である20地区の地域福祉ネットワークへのヒアリングの結果により見えてきた課題を中心に報告させていただいている。

[会長]

	<p>公助と共助と自助とを整理し、課題も明確にしていく必要がある。あるいは、公助、共助、自助というその分け方を改めて、考え直しても良いのではないか。</p> <p>本日、意見をいただいた自治会の事、防災の事、自助の事などをどう整理していくのか、それらを次回以降の会議でも審議を継続していきたいと思う。</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・飯塚市地域福祉推進協議会次第 ・【資料1】公助（行政）の取り組み状況一覧表 ・【資料2】共助の取り組み状況一覧表 ・【資料3】公助、共助の取り組みにおける課題 ・【資料4】事前質問に対する回答
公開・非公開 の別	<p><input checked="" type="checkbox"/> 1 公開 2 一部公開 3 非公開</p> <p>(傍聴者 なし)</p>
その他	